

シンポジウム バイオ燃料と土地利用 ～持続可能性の視点から～

現在、バイオ燃料の持続可能性については、国際的な議論が進められていますが、バイオマスや土地の総合的な利用の観点からの検討が必要です。

NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク、国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラムの3団体は、このたび、FAO 農業経済開発部次長のキース・ウィーブ氏、FoE インターナショナルのトリー・クスワルドノ氏の2名の海外ゲストを迎え、シンポジウム「バイオ燃料と土地利用～持続可能性の視点から～」を開催いたします。

■ 日時 2009年3月5日(木) 13:30～18:00

■ 会場 早稲田大学大久保キャンパス 55号館1階大会議室

■ プログラム

進行：中澤 健一／国際環境 NGO FoE Japan

13:30 開会

13:35-14:10 基調講演① バイオ燃料をめぐる国内外の概況

山地 憲治／東京大学大学院工学系研究科教授

14:10-14:45 基調講演② バイオ燃料：見通し、リスクと機会

キース・ウィーブ／国連食糧農業機関 (FAO) 農業経済開発部次長

14:45-15:10 バイオ燃料の持続可能性～基準についての議論と今後の方向性

井上 雅文／東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授

休憩 (10分)

15:20-15:45 東アジアにおける持続可能なバイオマス利用ビジョンと LCA

匂坂 正幸／(独)産業技術総合研究所素材エネルギー研究グループ長

15:45-16:15 バイオ燃料は持続可能か？

トリー・クスワルドノ／FoE インターナショナルアグロ燃料キャンペーン・コーディネーター

16:15-16:40 土地利用転換の現場から

満田 夏花／地球・人間環境フォーラム

休憩・質問用紙回収 (15分)

16:55-17:55 パネルディスカッション

「持続可能な社会におけるバイオ燃料の位置づけ」

パネリスト：(順不同)

山地 憲治

キース・ウィーブ

井上 雅文

匂坂 正幸

トリー・クスワルドノ

満田 夏花

コーディネーター：

泊 みゆき／バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 理事長

18:00 閉会

■ 主催 NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN)、
国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム

■ 後援 国連食糧農業機関 (FAO) 日本事務所
「環境・持続社会」研究センター (JACSES)

本シンポジウムは、三井物産環境基金の助成をいただき、開催いたします。



■ 講演者紹介（登壇順、敬称略）

山地 憲治（やまじ・けんじ）／東京大学大学院工学系研究科教授



1977 年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、(財)電力中央研究所に入所。1994 年 より東京大学教授。総合資源エネルギー調査会、産業構造審議会、中央環境審議会、原子力委員会等の部会などの委員を務める。著書は、「システム数理工学-意思決定のためのシステム分析-」（数理工学社）、「エネルギー・環境・経済システム論」（岩波書店）、「バイオエネルギー」（ミオシン出版）、「どうする日本の原子力」（日刊工業新聞社）ほか。工学博士。

キース・ウィーブ（Keith Wiebe）／

国連食糧農業機関（FAO）農業・消費者保護局農業経済開発部次長

カールトン大学で経済学を学んだ後、ウィスコンシン大学マディソン校より農業経済学修士号及び博士号を取得。2007 年 1 月に現職に就任する前は、ワシントン D.C. にあるアメリカ農務省経済調査局資源農林経済部次長。専門分野は、所有権、資源利用、土地劣化、保全政策、農業生産性、食料安全保障。



井上 雅文（いのうえ・まさふみ）／東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授



京都大学農学研究科博士課程林産工学専攻修了後、日本学術振興会特別研究員（京都大学木材研究所）などを経て、2007 年 4 月より現職。2007 年 11 月～2008 年 12 月、内閣府上席政策調査員（総合科学技術会議）を兼務。研究テーマは、縮木材の原理、製造、利用やバイオマス利活用およびその持続可能性など。博士（農学）。

匂坂 正幸（さぎさか・まさゆき）／

（独）産業技術総合研究所素材エネルギー研究グループ長

1977 年工業技術院公害資源研究所（現：（独）産業技術総合研究所）入所。北海道石炭鉱山技術研究センター、ライフサイクルアセスメント研究センター副研究センター長などを経て現職。現在は、持続可能な社会の形成に向けた素材・エネルギーシステムのライフサイクル思考に基づく評価、提言に取り組む。工学博士。



トリー・クスワルドノ（Torry Kuswardono）／

FoE インターナショナルアグロ燃料キャンペーン・コーディネーター



1998 年バンドゥン工科大学（Bandung Institute of Technology : ITB）環境工学科を卒業後、東インドネシアの地域の NGO を支援する NPO「Yayasan Pikul」で、天然資源管理、先住民族の権利問題を担当。2005 年から WALHI（FoE インドネシア）に移り、エネルギー・鉱物資源や気候変動のキャンペーナーとして活躍。2008 年 8 月より現職。

満田 夏花（みつた・かな）／地球・人間環境フォーラム主任研究員

東京都出身。地球・人間環境フォーラムにおいて、環境問題の調査に携わる。現在は、「発展途上国における企業の社会的責任」、「国際金融機関／開発援助機関の環境社会配慮」、「原材料調達における持続可能な自然資源管理」などをテーマとした調査研究・政策提言に従事している。



泊 みゆき（とまり・みゆき）／バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）理事長



日本大学大学院国際関係研究科修了。（株）富士総合研究所で 10 年以上、環境問題、社会問題のリサーチに携わる。1999 年、バイオマス資源の持続可能な利用促進を目的とする「バイオマス産業社会ネットワーク」を設立、共同代表に就任。2004 年より現職。主な著書に、『草と木のバイオマス』（共著、朝日新聞社）、『バイオマス産業社会』（共著、築地書館）他。経済産業省バイオ燃料持続可能性研究会委員、森林総合研究所外部評価委員他。静岡大学農学部非常勤講師。

